

Y994

J7624

2181

60

和十八年七月一日



大和民族を中核とする世界政策の検討

——特に民族人口政策を中心として——

(第二分冊)

厚生省研究所人口民族部

序

本輯「大和民族を中核とする世界政策の検討」は曩に假印刷に附せし「戦争の人口に及ぼす影響」の續篇として「厚生省研究所人口民族部」において特に民族人口政策の見地より編纂せるものなり。
第一篇より第七篇に亘る本輯は製本の都合上之を左の如く三分冊とす。

第一分冊

第一篇 總 説

第二篇 大東亜民族事情

第三篇 世界各國の民族事情

第二分冊

第四篇 自然環境と民族の關係

第五篇 民族的 세계觀と國家觀

第六篇 大和民族を中核とする世界政策

第三分冊

第七篇 大東亜建設計畫

資料入手其の他の困難を起えて特に忽々の間に取纏めたるものにして行間統一を缺きたるの恐れ無きにしむあらざれども右の廣汎なる夫々の問

Y994-J7624



I 種
W



1200801148226

厚生省研究所人口民族部調

「大和民族を中核とする世界政策の検討」

(特に民族人口政策を中心として)

第二分冊

目次

第三篇 世界各國の民族事情

一三〇九

第一章 蘇聯民族事情

一三〇九

第一節 概説

一三〇九

第二節 民族自治体制

一三二九

第三節 歐露の民族事情

一三三八

第一款 概説

一三三八

第二款 ロシヤ民族

一三四一

第三款 ウクライナ民族

一三四六

第四款 白ロシヤ民族

一三五〇

題に對し一應の集成に達し此處に取敢へず假印刷に附し以て部内の參考
に資するものなり。

昭和十八年七月一日

厚生省研究所人口民族部

第七節 民族政策の基調

一四二四

第二章 北米合衆國民族事情

一四三三

第一節 人口の人種的構成

一四三三

第二節 人種政策

一四四二

第三章 英吉利民族事情

一四六六

第四章 英植民地民族事情

一四八二

第一節 カナダ

一四八二

第二節 ニュージールランド

一五一二

第三節 オーストラリア

一五二七

第四節 インド

一五六二

第五章 獨逸及伊太利の民族事情

一六〇八

第一節 ドイツの民族問題

一六〇八

第一款 序 説

一六〇八

第一項 ナチス獨逸民族の人種的構成

一六〇八

第五款 沿ハルト諸民族

一三五五

第六款 ボルガ流域ドイツ民族

一三五七

第四節 南コーカサス及中央アジアの民族事情

一三六〇

第五節 シベリヤの民族事情

一三六七

第一款 概説

一三六七

第二款 原住民族

一三七三

第三款 スラブ民族

一三七六

第四款 其他の外来民族

一 ユクマ人 朝鮮人・支那人

一三八六

第六節 人口事情

第一款 總人口の趨勢

一三八九

第二款 都鄙別人口

一三九四

第三款 年齢別構成

一四一五

第四款 職業別構成

一四二〇

第五款 反ユダヤ人立法

一六八二

第六章 阿弗利加大陸民族事情

一六八六

第一節 アフリカ民族事情

一六八六

第二節 アフリカの諸問題

一七〇五

附 節 資料「アフリカの輸送ルート」

一七一八

第七章 猶太人問題

一七四六

序 言

一七四六

第一節 ユダヤ民族概観

一七四七

第一款 史的生成過程

一七四七

第二款 人口分析状態

一七五〇

第二節 ユダヤ民族の特性

一七五二

第一款 不同化性とユダヤ教

一七五二

第二款 功利主義

一七五四

第三款 万民主義

一七五四

第二項 獨逸民族形成史の概観

一六二〇

第三項 ドイツに於ける民族問題

一六二〇

第二款 反ユタマ人立法

一六二七

第一項 一九三三年當時の所謂ユグマ禍の概観

一六二七

第二項 反ユグマ人立法

一六二九

第三項 一九三九年國勢調査によるユタマ人の現況

一六四〇

第三款 大獨逸支配下の諸民族

一六四七

第一項 大獨逸國境内の異種民族

一六四七

第二項 獨逸の政治軍事的支配下の諸民族

一六五四

第二節 ファシズム伊太利の民族政策

一六六八

第一款 序説

一六六八

第二款 植民地土着人口に對する諸方案

一六七一

第三款 反混血立法

一六七七

第四款 一九三八年の「人種宣言」

一六七九

第一款 過去に於けるユダヤ人問題對策

一七八八

第二款 ユダヤ人問題對策

一七九〇

第六節 日本とユダヤ人問題

一七九五

第一款 日本に於けるユダヤ人

一七九六

第二款 滿洲に於けるユダヤ人

一七九七

第三款 支那に於けるユダヤ人

一七九九

第四款 日本に於けるユダヤ問題（初期）

一八〇二

第五款 現代に於けるユダヤ人問題

一八〇六

第六款 日本に於けるユダヤ人問題對策

一八一九

附 錄

一八二四

「タルムード」抜萃

一八二四

「シオン議定書」抜萃

一八二七

フリー・メイソンに就て

一八五九

第八章 回教勢力圖

一八七〇

第四款 陰性の性格

一七五五

第五款 迫害と生存力

一七五五

第三節 ユダヤ民族の解放と進出

一七五六

第一款 ユダヤ人の解放と社會急進思想

一七五六

第二款 フリー・メーソン

一七六〇

第三款 資本家と革命家

一七六二

第四款 經濟的進出

一七六三

第五款 政治的進出

一七六九

第六款 新聞通信藝術學術界への進出

一七七四

第四節 ユダヤ民族と他民族との對立抗爭

一七七八

第一款 近代反猶思想及び運動

一七七八

第二款 現代反猶主義及び運動

一七八〇

第三款 シオンの議定書

一七八四

第五節 ユダヤ人問題對策

一七八六

第一節 海岸地帯

一九六〇

第二節 海 洋

一九九六

第三節 大陸と半島

二〇一七

第四節 島 嶼

二〇四四

第五節 平野・草原と沙漠

二〇八六

第六節 山岳と山道

二一二三

第五篇 民族的世界觀と國家觀

二一四八

第一節 序 説

一八七。

第二節 回教總説

一八七。

第三節 回教徒の分布と列強の回教政策

一九一八

第四節 回教圈概説

一九三二

第一款 近 東

一九三二

第二款 印 度

一九三六

第三款 インドネシア

一九四二

第四款 支 那

一九四九

第五款 滿 洲

一九五八

第五節 結 言

一九五八

第四篇 自然環境と民族の關係

一九六〇

第一章 地勢と民族との關係

一九六〇

第三編

第一章 蘇聯民族事情

第一節 概説

ソヴェート社会主義共和国聯邦を構成する主要民族は、周知の如く、所屬
ゲルマン人種（マリヤン人種）に族するスラブ民族であり、其外は所謂
フラスラブル族と称せらるゝものである。是れは聯邦総人口の約七八割
を占むるものであるが、其外にマリヤン系古代アジア系及蒙古系の人種
民族を無数に包し、其の種別は大小二百種に達してゐる。

正に民族博物館の名に恥ぢず、其の民族的構成の複雑なることは世界
無比である。而して斯くの如く他に比類のない多数の異民族を内包して
ゐるロシアは、帝政時代永らく此等を無知と視、相互の怨恨と反目と